

車を走らせるだけで道路の状況をAI診断

地方自治体の道路管理業務を支援するサービスが、KYBのスマート道路モニタリングシステムである。

道路管理においては、自治体職員が市道を巡回し、危険箇所を撮影/記録し、後日、優先度を評価するのに手作業で補修するのが一般的である。日々の業務が忙しく手が回らな

かったり、業務効率の課題もあった。専門会社に依頼するとまとまった費用が発生してしまう。

同システムは、車両挙動計測ロガーを開発し、パトロールする車から画像や振動のデータを自動収集。車両位置は、準天頂衛星システム「みちびき」を活用し、センチメートルレベルで把握

できる。

得られたデータをもとに、路面性状を診断するAIを用いて、路面損傷を推定する。テストデータでは相関係数は0.8以上だった。車両で巡回するだけで路面状況を診断でき、業務効率の向上が期待される。2021年度、鳥根県益田市で実証実験を行った。

図 スマート道路モニタリングシステムの概要

